

鳥取市「気高道の駅（仮称）」整備 基本構想・基本計画

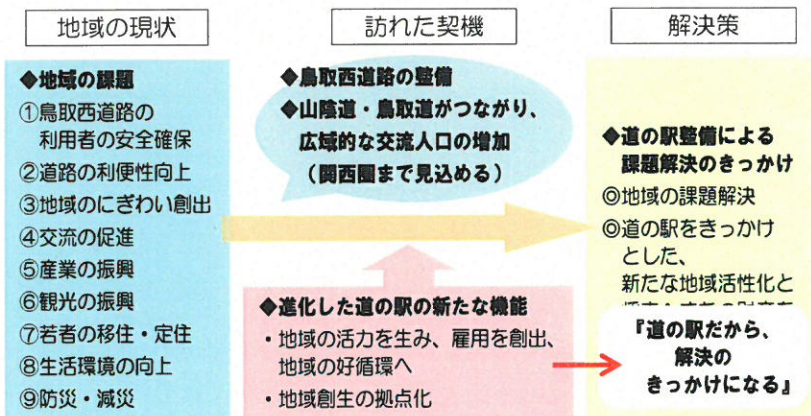
基本構想

概要版

■気高道の駅（仮称）整備の目的と整備効果

●気高道の駅（仮称）の整備の目的

鳥取西道路の開通を契機として、「地域の課題を解決するきっかけとなり、地域活性化につながる」道の駅を整備します。本道の駅は、「山陰道利用者の安全確保のための休憩施設」になるだけでなく、「鳥取市の西の玄関口」になります。また、気高・鹿野・青谷地域の新たな拠点となり、ここが3地域の中心的な地域の1つになっていく可能性があります。



●地方創生の拠点となる道の駅

地方創生の拠点となるゲートウェイ型と地域センター型の両方の機能を持つ道の駅の整備が求められています。



●鳥取市への整備効果

整備後には、以下の効果が見込まれます。

- ・ 来訪者（観光人口）の増加
- ・ 地域経済の活性化や交流による地域活性化
- ・ まちづくりの活性化や定住促進
- ・ 地域への波及効果や地域連携の強化
- ・ 既存の道の駅や観光施設等との連携により、「神話」や「ジオパーク」、「マリンスポーツ」等をテーマとした、体験・滞在・周遊観光等の促進



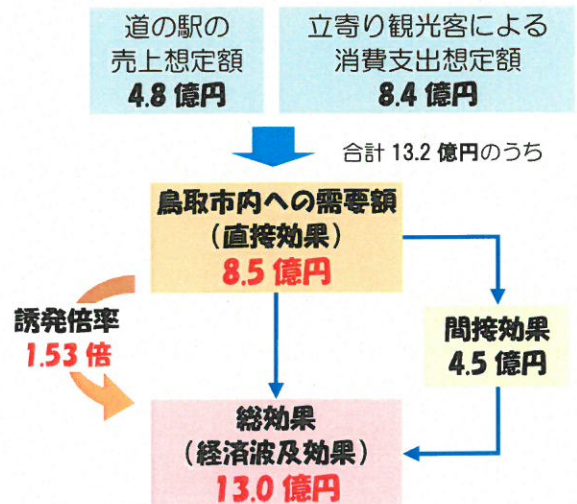
「神話の里白うさぎ」



「清流茶屋かわはら」

●道の駅整備に伴う経済波及効果

道の駅の整備により、約13億円の経済波及効果が推計されます。



■道の駅のコンセプト

●道の駅のコンセプト

「人とまちを元気にする

鳥取・因幡らしさが息づく 西因幡 道の駅」

地域全体で道の駅を盛り上げるとともに、道の駅から生み出される人・モノ・お金の流れが、地域や市全体に波及する、「人とまちを元気にする道の駅」とします。

●道の駅に求める姿

誰もが立寄りたくなる
「おもしろい」道の駅」

地域の人が使いやすく、やりたいことができる

「地域のための道の駅」

地域を周遊するきっかけの
「まちの顔・案内人」

まちがうるおい、元気になる！
「地域に還元する道の駅」

●道の駅の3つの柱

地域を活かす

- 「山や海の幸等、魅力が満載！」
新鮮な地元産のこだわりで
地域への来訪者とリピーターづく



- 「地域でやりたいコト」に貢献できる場
(新しい産業(コミュニティビジネス)や特産品の開発)



- 農畜水産業や製造加工業、観光業等の地域の産業振興につながる場
- 交流人口の増加につながる場

地域と暮らす

- 「地域の人の顔が見える」場
(地域と来訪者とのふれあい、
地域のコミュニティづくり)



- 地域の暮らし・生活に役立つ場



- 休憩や防災・減災等、来訪者と地域を守る場
- 環境にやさしい場



- 3地域が一つにつながり、
次世代のリーダーを育てる場

地域を感じる

- 自然景観を活かした、季節を感じる癒しと憩いのオシャレ空間
- 子どもも大人も楽しめる遊び場
- 音と匂いで誘う、目の前でつくる新鮮な地元産の食
- 地域の恵みを活かした健康食
- 地域の生で旬な魅力や情報を対面で提供する場
- 地域の文化や産業に触れる場



鷲峰山を望む緑豊かなロケーション

癒す



食す

体験する



遊ぶ

基本計画

■導入施設と規模の設定

	施設	規模(m ²)	備考
基盤施設	駐車場(小型車)	3,400	112台
	〃(大型車)	2,800	20台
	公園(緑地等含む)	5,000	休憩スペース、イベントスペースを含む
	足湯	50	
	共用部	5,600	バックヤード等
基盤施設面積		16,850	①
駅舎施設	トイレ	150	男小11、大5、女12、多目的2
	休憩室	140	情報コーナー、案内人を含む
	農畜産物売り場	100	
	特産品売り場	100	
	海産物売り場	50	
	レストラン	350	
	農水産物加工施設	100	
	ファストフード	20	
	地域交流スペース	30	
	管理事務所	50	
	コンビニエンスストア	160	
	共用部	250	附属施設、通路、倉庫、温泉シャワー等
	建築施設面積		1,500
必要敷地面積		18,350	①+② ≒19,000 m ²



休憩スペース(屋外)



休憩スペース(屋外)



案内人



農畜産物売り場



農水産物加工施設



公園

■計画候補地

道の駅の計画候補地は、立地性や視認性、アクセス性、敷地面積の確保、将来的な拡張性、防災性、農業用排水路の整備等の他事業との関連等を踏まえ、鳥取西道路の浜村鹿野温泉IC(仮称)周辺の適地とします。



■基本計画図 (イメージ)

